

[Future Presentation] 道徳性向上後の行動におけるアラートシステム

阿部 敬一郎^{*1*2}^{*1}東筑紫短期大学中谷 多哉子^{*2}^{*2}放送大学大学院

要旨

道徳教育支援システムの一部である、高次の道徳的行為の発現を促すためのタスク管理システムを提案する。既存のクラウドサービスを使用し、教師と学生、学生と学生とで学内外での実践とその達成率を可視化する。

1. はじめに

「情報倫理」の研究は我々の生活で一般的なことである。しかしながら文書化されたルールや倫理では、世界のあらゆるシチュエーションをフォローしきれない。規則にないことは何をしても許されるという考えは危険である。ルールや倫理のリストを作ることがなくても、物事の善し悪しが議論できるためのサポートに、成人向け道徳教育が必要であるとする。

しかし成人に道徳の教育をすることは容易ではなく、成人向けの道徳教育の成果を研究する例も殆ど無い。本研究は卒業までという時間の中、社会に出る前の大学生の道徳教育方法を作る挑戦をする。大学生への道徳教育の定義を、『①学生自身が高い道徳性の考え方を理解し、②高い道徳性で議論し、③高い道徳性を実社会で発動し、④それを認識するまでが含まれる』とした。論文^[1]の中で①～②は成功することができたが、③の道徳性の高い行動の発動と④の認識に課題が残った。

ジャック J. フィリップス^[2]が教育・研修の成果をまとめるシート類を参考にし、「アクションプランワークシート」を作成した。高次の道徳性を意識して行動の計画を立て、振り返りによって高次の道徳性の発動を認識できる。目標を立てるのは上記①②の直後の教室なので、教師や学生同士のアドバイスにより高次の道徳的意識はある。つまりタスクも計画された時点で、高次の道徳性によるものと言える。

タスク管理は次の2点で道徳教育に効果的である。1つは道徳的行動には発動の制限が厳しくないため、忘れがちである点である。公の場において発動目標を立てることで、意図的に行動を取れる状況を設定できる。2つは高次の道徳的意識を促せることである。道徳的行動は意識の持ち方で高低が変わる。タスクを先生や学生同士で共用することで、決めた行動を取るだけでなく、行動意

識に高い道徳性を気づかせる環境に置ける。

具体的な道徳的行為であるが、現段階において判断できる行為は限られている。執筆者の勤務する大学における「建学の精神」の一部、「勇気の心、親和の心、愛の心」は実験対象の学生に行動が促しやすい。具体的な行為は挨拶・礼と掃除が例に上がる。挨拶・礼は場の雰囲気や感謝の気持ちや相手を思いやる気持ち、敬愛の心を持って行うと高次の道徳性になる。挨拶の言葉やおじぎをするという行為ではわからない。行為を起こす前に高次の道徳性を気づかせ、発現したらすぐ記録することが望ましい。その時の気持ちがわかるのは本人だけだからだ。

頭で理解していても高い道徳性を発現させ行動に移れるかは別問題である。この度のアラートシステムは道徳的目標の内容と意識の気づき、計画時にアラート(アラームを鳴らす・バイブレーションで知らせる)を出すこと、その行動の達成度を教師と学生、学生同士とで共有する手法について提案する。

2. クラウドシステムの準備と管理手法

2.1. “Wunderlist”の紹介

Wunderlist はクラウド型タスク管理 Web アプリケーションである。機能概要は以下の通り。

- (1) 5人までタスクを共有することができ、共有者はお互いにタスクを振ることができる。
- (2) タスクは開始時間とアラートとして注意を促す時間、タスク完了見込み時間を設定でき、タスクを始めてから終わるまでの時間をカウントすることができる。毎日、毎週のように繰り返すタスクも設定が可能。
- (3) 目標の設定、アラート、タスクの完了ボタンを押したとき、プッシュメールでグループメンバーに自動で告知がされる。
- (4) スマホアプリケーションでも Web サイトでも

タスク管理が行えるサービスである。

以上の機能から、道徳的行動の管理方法を紹介する。

2.2. 道徳的行動の管理方法と評価

高い道徳性を得た学生が、高次の道徳性を得た同級生や先生のアドバイスを受けながら行動目標を自ら設定しなければならない。道徳性を評価することを考えると、人が集う場所に赴く時間が行動を発現しやすい。例えば通学中や休み時間、授業後の時間や掃除当番のような他人と接点を持てる時間や公共的義務の執行中が挙げられる。高い道徳性を発現できる時間と場所を特定したら、タスクを自ら課し、教師とある時は学生にも目標を共有する。学生同士で目標を共有することは、高次の道徳性を発現する補助として期待できる。また学内の当番のように、学生が一緒に活動するときは、お互いが目標を立ててもよいし、共通の1タスクを代表者が管理してもよい。

目標とした行為が一定の時間を要する場合は、開始時と終了時にスマホの管理画面のボタンを押す。操作が複雑に感じる場合は終了したときのみでもよい。そのときの行為または意識が目標に届かなかった、あるいは予想以上だった場合は、理由をコメントとして残す。入力面倒なら音声で残してもよい。タスクが完了すると、情報の共有者にメールが自動で届く。計画して初日に当たるときは学生や先生から「いいね」などのコメントで褒めたり、励ましたりして計画の達成をサポートできる。報告がないときはリマインダーを送り、行動を促してもよい。すべての報告に先生がすべて答えることは難しいので、学生同士の双方向教育を効果的に活用することが望ましい。ただしコメントを出し合える、学生同士の仲の良い雰囲気を構築する課題は残る。

計画した行動をリアルタイムに把握し、タイミングよく人による評価や励ましをすることで、高次の道徳的な行為にやりがいを見つけやすくなる。繰り返すことで行為と考え方が習慣化し、大学生への道徳教育の定義の達成に近づく。目標とする期間の終了後にタスクの成否を集計し、行為を発動するときの気持ちは教師がL.コールバーグの道徳性の発達段階^[4]に照らして6段階で評価する。

3. ディスカッションと考察

教材、授業を可視化することで道徳教育レベルを合わせること、行動の達成度合いを可視化することで、母集団の道徳性の発現を比較することを目指した。高次の道徳性を発現できない母集団が生まれたとしたら、児童向けの道徳教育とは違い、対象者が大学生や成人ゆえの間

題が見えるはずだ。その問題を埋める教育や支援システムを構築、実験することでより完成度の高い、成人・大学生向けの道徳教育を目指す。

参考文献

- [1] 阿部敬一郎, 辰己丈夫, 村上祐子, 中谷多哉子, “道徳教育支援システム化に向けたモラルジレンマ”, 信学技報, vol. 116, no. 493, KBSE2016-44, pp. 31-36, 2017年3月.
- [2] J. J. Phillips, How to Measure Training Results: A Practical Guide to Tracking the Six Key Indicators, New York: McGraw-Hill, 2000.
- [3] Wunderlist, <https://www.wunderlist.com/ja/download/>(2017年3月16日アクセス)
- [4] Anne Colby, F., Lawrence Kohlberg, S.: The Measurement of Moral Judgment. Volume I. Cambridge University Press, New York (1987).